

言葉の耳袋（2）

JOBA 顧問 教育アドバイザー

張江 幸男

滞在期間の長短にかかわらず、海外に住む子ども達への日本語の教育は保護者にとって大きな問題です。このコラムでは、海外・帰国子女教育の大ベテランが「海外での日本語教育」へのアドバイスを語ります。

（4）家庭生活で日本語力を身に付ける工夫

② 言葉の前に心 ・ ・ 親の文化観

ニューヨークに3年駐在しました。ロングアイランドのフレッシュメドウで、マンハッタンから車で30分の静かな住宅街でした。右隣がプロテスタント、左はユダヤ教の家族でした。両家とも親しくお付き合いしました。

6月のある日帰宅すると、妻が「心配なんですよ」と言いながら鞆を受け取りました。夕食を摂りながら話を聞きますと、左隣のグリーンさんには3人のお子さんがいました。末っ子は5歳のメアリーちゃん。きょうの午後3時ころ友人と一緒にやってきて、花束を差し出しました。「ワンダラー、プリーズ」というので、幼稚園のドネーション活動かと思って1ドルをわたしたのですが、なんだか腑に落ちませんと心配顔。テーブルの上には、野の草の可憐な花が数本、赤い靴紐で結わえられた花束がおかれていました。

夕食を摂っていると、突然ノックの音がしました。ドアを開けると二人の幼女を連れてグリーンさんが立っていました。「この1ドルは貴方のワイフがメアリーに与えたのか」。妻が肯くと「大変申し訳ないことをした。メアリーは友達と、姉たちがやっているドネーションごっこを試みたかったのだ」。妻を騙した行為は罪が重い。メアリーを叱ってほしい。と丁重に謝って、メアリーを前に突き出しました。わたしはしどろもどろの英語で、2度とひとを騙すようなことはしないこと。子供のいけないことを、すぐに詫言にきたあなたのお父さんの勇気はすばらしい。と話して帰って頂きました。

毎週土曜日の朝、グリーンさんの家族は、教会に出かけます。いつもはひつつめ髪、ジーパン、Tシャツで走り回っている奥さんは、ロングドレスに大きなつばの帽子でゆったりと歩みます。グリーンさんもスーツ、ネクタイ姿で堂々と先頭に立ちます。3人の娘たちも天使のような装いで、心なしかおしゃべりのトーンもいつもより低いようです。「映画のシーンのようだね」私と妻は見ほれていました。

花束ジケン以来、ユダヤ人に興味を持ち何冊か本を読んでみました。教育に関係ある記述が印象に残りました。

1、民族の優秀性 米国のユダヤ人は約600万人で、米国総人口の2.5%である。毎年『フォーチュン』誌が選ぶ米国の富豪の約25%がユダヤ人実業家である。また学問の世界での活躍はさらに素晴らしい。全米の大学教授の10%がユダヤ人である。またノーベル賞を受賞した米国のうち、ユダヤ人は30%近くにのぼる。しかし、ユダヤ人はすべて優秀な血筋なのかといえば、決して

そうではない。優秀なユダヤ人もおれば、凡庸なユダヤ人もいるのは、日本人と変わりはない。しかし、教育に対する考え方は違っている。

2、JAP を容認するな 最近、米国のユダヤ人の間で、甘やかされて育った若者を容認しない。ユダヤ人の大人はそういうスポイルされた若者を容認しない。そういう子供を持つ親は、わが子に向かって、真正面から容赦なく叱責する。しかも、「おまえはJAPだ!」と最大級の辛辣なことばで罵倒する。「JAP」という言葉は、特にニューヨークでも金持ちのユダヤ人が住む高級住宅地グレイトネックでよく聞かれる。これは日本人に対する軽蔑語ではない。「ジュイッシュ・アメリカン・プリンセス」の略である。わがままなお姫様のように、甘やかされて自分本位の主張ばかりするユダヤ人子弟を指すことばである。

もとより、そういう甘えたユダヤ人の子弟をつくったのは親たちの責任である。しかし、自分たちの子どもがJAPと分かった時点で、ユダヤの大人たちはそれを拒絶し、悪い性向をみんなで改めさせようと躍起になる。その理由は二つある。

第一に、ユダヤ人に対する周囲の社会の根強い差別から来る危機感である。子弟が甘えたまま成人し、豊かさの中で贅沢に驕るようになれば、周囲からの嫉妬や中傷で、自分たちユダヤ人社会が攻撃的にさらされる危険がる。

第二に、甘えたままだと、父祖たちが汗水流して築いてくれた財産をやがて失うことは明白であり、これもまた彼らの存続に関わる要因となりかねない。それゆえ、彼らはいかに豊かになっても、いや、豊かになればなるほど、子弟をユダヤ人らしく育てるのである。

3、ユダヤ人らしさは教育から ユダヤ人がユダヤ人らしくなり、日本人が日本人らしくなるのは、せんじ詰めると、それぞれの民族がどういう目標で動機付けし、どういう視点で教育を考え実際にどういう教育をほどこしているかによる部分が大きい。そこに民族特性を形成する上での、いわば教育の隠し味がある。つまり、教育で教えられている学科の内容よりも、教える側の思想や大人たちが共有している文化観が、子弟の育成には大きく影響するわけである。

では、ユダヤ人はどういう目標で子弟に動機づけをし、どういう角度から教育を施し、どういう視点で教育を考えているのだろうか。ユダヤ人にとって教育の目標は明確である。「自分に必要な知識を身につけるために教育は必要だ」である。